

目 次

●教養特別講義(La・Ea).....	1
●教養特別講義(Lb・Eb).....	3
●教養特別講義(Lc・Ec).....	-5
●教養特別講義(Ld・Ed).....	- 7
●教養特別講義(Le・F27).....	9
●教養特別講義(Lf・F28).....	-11
●教養特別講義(Ee・T22A).....	-13
●教養特別講義(Ef・T22B).....	- 15
●教養特別講義(Eg・T23A).....	-17
●教養特別講義(Eh・T23B).....	19
●教養特別講義(M11・P18).....	- 21
●教養特別講義(M12・P19).....	- 23
●教養特別講義(M13・T20A).....	- 25-
●教養特別講義(M14・T20B).....	-27-
●教養特別講義(M15・T21A).....	-29-
●教養特別講義(D16・K25).....	- 31 -
●教養特別講義(D17・K26).....	- 33 -
●教養特別講義(T21B・T21C).....	- 35 -

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位																																																																											
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)																																																																													
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 102・中部講堂																																																																													
対象学生(クラス等) La・Ea	科目分類 共通基礎科目																																																																														
担当教員 / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 岡林隆敏/Eメールアドレス:okabayas@civil.nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2621 /オフィスアワー:月曜日午後 高橋和雄/Eメールアドレス:takahasi@civil.nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2610/オフィスアワー:月曜日 14:30-17:30 中田英昭/Eメールアドレス:nakata@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2816/オフィスアワー: 舟越耿一/Eメールアドレス:funakoe@nagasaki-u.ac.jp/研究室:教育学部/TEL:819-2306 /オフィスアワー:木 3																																																																															
担当教員(オムニバス科目等)																																																																															
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。																																																																															
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 長崎: 長崎の都市形成史の概要を講義します。 第1回目は長崎市の町立てから幕末まで、主に江戸時代の都市形成。 第2回目は近代の長崎市の都市形成、道路・港湾・水道など近代化する都市の姿を見ます。 第3回目は長崎と上海の交流を見ます。自動車・鉄道・船舶の連携による長崎の発展する様子を見ます。 映像で構成された講義です。町立てから昭和戦前期の長崎市の都市の形成の流れを理解することが講義の目的です。 安全・安心:長崎に発生した豪雨、地震、台風、火山噴火等による自然災害の概要、教訓、復興対策から、日頃からの地域や個人での災害に対する備え、助け合いの大切さを学びます。 第1回目 安全安心の総論・地震 第2回目 豪雨、火山噴火、台風等 第3回目 火山噴火、台風等 海洋と文化:1. 地球と海と人と一海の世界を大切にすることの意味 2. 長崎周辺の海(その1)-東シナ海・黄海の世界問題と今後の国際協力のあり方 3. 長崎周辺の海(その2)-大村湾・有明海の世界保全・回復のための地域の取り組み 平和: 1. 長崎から平和多文化共生の理念を構想する 2. 被爆都市長崎と兵器生産 3. 報復の連鎖を断つことばを求めて <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月12日</td> <td>特別講演Ⅰ</td> <td>片峰 茂</td> <td>(学 長)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>4月19日</td> <td>長 崎</td> <td>岡林 隆敏</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>4月26日</td> <td>長 崎</td> <td>岡林 隆敏</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>5月10日</td> <td>長 崎</td> <td>岡林 隆敏</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>5月17日</td> <td>安全・安心</td> <td>高橋 和雄</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5月24日</td> <td>安全・安心</td> <td>高橋 和雄</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>6月 7日</td> <td>安全・安心</td> <td>高橋 和雄</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>6月14日</td> <td>海洋と文化</td> <td>中田 英昭</td> <td>(水産学部)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>6月21日</td> <td>海洋と文化</td> <td>中田 英昭</td> <td>(水産学部)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>6月28日</td> <td>海洋と文化</td> <td>中田 英昭</td> <td>(水産学部)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>7月 5日</td> <td>特別講演Ⅱ</td> <td>後藤 恵之輔</td> <td>(名誉教授)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>7月12日</td> <td>平 和</td> <td>舟越 耿一</td> <td>(教育学部)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>7月26日</td> <td>平 和</td> <td>舟越 耿一</td> <td>(教育学部)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>7月30日</td> <td>平 和</td> <td>舟越 耿一</td> <td>(教育学部)</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>8月 2日</td> <td>特別講演Ⅲ</td> <td>橋本 健夫</td> <td>(教学担当理事)</td> </tr> </table>					第1回	4月12日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)	第2回	4月19日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)	第3回	4月26日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)	第4回	5月10日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)	第5回	5月17日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)	第6回	5月24日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)	第7回	6月 7日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)	第8回	6月14日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)	第9回	6月21日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)	第10回	6月28日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)	第11回	7月 5日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)	第12回	7月12日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)	第13回	7月26日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)	第14回	7月30日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)	第15回	8月 2日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)
第1回	4月12日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)																																																																											
第2回	4月19日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)																																																																											
第3回	4月26日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)																																																																											
第4回	5月10日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)																																																																											
第5回	5月17日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)																																																																											
第6回	5月24日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)																																																																											
第7回	6月 7日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)																																																																											
第8回	6月14日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)																																																																											
第9回	6月21日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)																																																																											
第10回	6月28日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)																																																																											
第11回	7月 5日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)																																																																											
第12回	7月12日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)																																																																											
第13回	7月26日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)																																																																											
第14回	7月30日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)																																																																											
第15回	8月 2日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)																																																																											

キーワード	長崎:長崎の都市形成史 安全・安心:自然災害、減災社会、公助・自助 海洋と文化:海洋環境、人間と海とのかかわり 平和:原爆 兵器生産 キリシタン弾圧
教科書・教材・参考書	長崎:参考書:岡林隆敏著:上海航路の時代、長崎文献社 安全・安心:参考書:安全安心工学入門 海洋と文化:印刷物を配布する。 平和:参考書:『ナガサキから平和学する』法律文化社
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:毎回レポートの課題を出し、3回のレポートにより評価する。 安全・安心:レポート各7点 海洋と文化:毎回のレポート各7点 平和:毎回のレポート各7点
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 205・中部講堂		
対象学生(クラス等) Lb・Eb	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 舟越耿一/Eメールアドレス:funakoe@nagasaki-u.ac.jp/研究室:教育学部/TEL:819-2306 /オフィスアワー:木3 岡林隆敏/Eメールアドレス:okabayas@civil.nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2621 /オフィスアワー:月曜日午後 高橋和雄/Eメールアドレス:takahasi@civil.nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2610/オフィスアワー:月曜日 14:30-17:30 中田英昭/Eメールアドレス:nakata@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2816/オフィスアワー				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 平和: 1. 長崎から平和多文化共生の理念を構想する 2. 被爆都市長崎と兵器生産 3. 報復の連鎖を断つことばを求めて 長崎: 長崎の都市形成史の概要を講義します。 第1回は長崎市の町立てから幕末まで、主に江戸時代の都市形成。 第2回目は近代の長崎市の都市形成、道路・港湾・水道など近代化する都市の姿を見ます。 第3回目は長崎と上海の交流を見ます。自動車・鉄道・船舶の連携による長崎の発展する様子を見ます。 映像で構成された講義です。町立てから昭和戦前期の長崎市の都市の形成の流れを理解することが講義の目的です。 安全・安心:長崎に発生した豪雨、地震、台風、火山噴火等による自然災害の概要、教訓、復興対策から、日頃からの地域や個人での災害に対する備え、助け合いの大切さを学びます。 第1回目 安全安心の総論・地震 第2回目 豪雨、火山噴火、台風等 第3回目 火山噴火、台風等 海洋と文化:1. 地球と海と人と一海の世界を大切にすることの意味 2. 長崎周辺の海(その1)-東シナ海・黄海の世界問題と今後の国際協力のあり方 3. 長崎周辺の海(その2)-大村湾・有明海の世界保全・回復のための地域の取り組み 第1回 4月12日 特別講演Ⅰ 片峰 茂 (学 長) 第2回 4月19日 平 和 舟越 耿一 (教育学部) 第3回 4月26日 平 和 舟越 耿一 (教育学部) 第4回 5月10日 平 和 舟越 耿一 (教育学部) 第5回 5月17日 長 崎 岡林 隆敏 (工学部) 第6回 5月24日 長 崎 岡林 隆敏 (工学部) 第7回 6月 7日 長 崎 岡林 隆敏 (工学部) 第8回 6月14日 安全・安心 高橋 和雄 (工学部) 第9回 6月21日 安全・安心 高橋 和雄 (工学部) 第10回 6月28日 安全・安心 高橋 和雄 (工学部) 第11回 7月 5日 特別講演Ⅱ 後藤 恵之輔 (名誉教授) 第12回 7月12日 海洋と文化 中田 英昭 (水産学部) 第13回 7月26日 海洋と文化 中田 英昭 (水産学部) 第14回 7月30日 海洋と文化 中田 英昭 (水産学部) 第15回 8月 2日 特別講演Ⅲ 橋本 健夫 (教学担当理事)				

キーワード	平和:原爆 兵器生産 キリシタン弾圧 長崎:長崎の都市形成史 安全・安心:自然災害、減災社会、公助・自助 海洋と文化:海洋環境、人間と海とのかかわり
教科書・教材・参考書	平和:参考書:『ナガサキから平和学する』 法律文化社 長崎:参考書:岡林隆敏著:上海航路の時代、長崎文献社 安全・安心:参考書:安全安心工学入門 海洋と文化:印刷物を配布する。
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:毎回レポートの課題を出し、3回のレポートにより評価する。 安全・安心:レポート各7点 平和:毎回のレポート各7点 海洋と文化:毎回のレポート各7点
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位																																																																											
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)																																																																													
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 201・中部講堂																																																																													
対象学生(クラス等) Lc・Ec	科目分類 共通基礎科目																																																																														
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中田英昭/Eメールアドレス:nakata@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2816/オフィスアワー 舟越耿一/Eメールアドレス:funakoe@nagasaki-u.ac.jp/研究室:教育学部/TEL:819-2306 /オフィスアワー:木3校時 岡林隆敏/Eメールアドレス:okabayas@civil.nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2621 /オフィスアワー:月曜日午後 高橋和雄/Eメールアドレス:takahasi@civil.nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2610/オフィスアワー:月曜日 14:30-17:30																																																																															
担当教員(オムニバス科目等)																																																																															
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。さらに、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。また、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。																																																																															
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 海洋と文化:1. 地球と海と人と一海の世界を大切にすることの意味 2. 長崎周辺の海(その1)-東シナ海・黄海の環境問題と今後の国際協力のあり方 3. 長崎周辺の海(その2)-大村湾・有明海の環境保全・回復のための地域の取り組み 平和:1. 長崎から平和多文化共生の理念を構想する 2. 被爆都市長崎と兵器生産 3. 報復の連鎖を断つことばを求めて 長崎: 長崎の都市形成史の概要を講義します。 第1回は長崎市の町立てから幕末まで、主に江戸時代の都市形成。 第2回目は近代の長崎市の都市形成、道路・港湾・水道など近代化する都市の姿を見ます。 第3回目は長崎と上海の交流を見ます。自動車・鉄道・船舶の連携による長崎の発展の様子を見ます。 映像で構成された講義です。町立てから昭和戦前期の長崎市の都市の形成の流れを理解することが講義の目的です。 安全・安心:長崎に発生した豪雨、地震、台風、火山噴火等による自然災害の概要、教訓、復興対策から、日頃からの地域や個人での災害に対する備え、助け合いの大切さを学びます。 第1回目 安全安心の総論・地震 第2回目 豪雨、火山噴火、台風等 第3回目 火山噴火、台風等 <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%;">第1回</td> <td style="width:15%;">4月12日</td> <td style="width:20%;">特別講演Ⅰ</td> <td style="width:20%;">片峰 茂</td> <td style="width:25%;">(学 長)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>4月19日</td> <td>海洋と文化</td> <td>中田 英昭</td> <td>(水産学部)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>4月26日</td> <td>海洋と文化</td> <td>中田 英昭</td> <td>(水産学部)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>5月10日</td> <td>海洋と文化</td> <td>中田 英昭</td> <td>(水産学部)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>5月17日</td> <td>平 和</td> <td>舟越 耿一</td> <td>(教育学部)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5月24日</td> <td>平 和</td> <td>舟越 耿一</td> <td>(教育学部)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>6月 7日</td> <td>平 和</td> <td>舟越 耿一</td> <td>(教育学部)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>6月14日</td> <td>長 崎</td> <td>岡林 隆敏</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>6月14日</td> <td>長 崎</td> <td>岡林 隆敏</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>6月28日</td> <td>長 崎</td> <td>岡林 隆敏</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>7月 5日</td> <td>特別講演Ⅱ</td> <td>後藤 恵之輔</td> <td>(名誉教授)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>7月12日</td> <td>安全・安心</td> <td>高橋 和雄</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>7月26日</td> <td>安全・安心</td> <td>高橋 和雄</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>7月30日</td> <td>安全・安心</td> <td>高橋 和雄</td> <td>(工学部)</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>8月 2日</td> <td>特別講演Ⅲ</td> <td>橋本 健夫</td> <td>(教学担当理事)</td> </tr> </table>					第1回	4月12日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)	第2回	4月19日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)	第3回	4月26日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)	第4回	5月10日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)	第5回	5月17日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)	第6回	5月24日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)	第7回	6月 7日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)	第8回	6月14日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)	第9回	6月14日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)	第10回	6月28日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)	第11回	7月 5日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)	第12回	7月12日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)	第13回	7月26日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)	第14回	7月30日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)	第15回	8月 2日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)
第1回	4月12日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)																																																																											
第2回	4月19日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)																																																																											
第3回	4月26日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)																																																																											
第4回	5月10日	海洋と文化	中田 英昭	(水産学部)																																																																											
第5回	5月17日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)																																																																											
第6回	5月24日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)																																																																											
第7回	6月 7日	平 和	舟越 耿一	(教育学部)																																																																											
第8回	6月14日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)																																																																											
第9回	6月14日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)																																																																											
第10回	6月28日	長 崎	岡林 隆敏	(工学部)																																																																											
第11回	7月 5日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)																																																																											
第12回	7月12日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)																																																																											
第13回	7月26日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)																																																																											
第14回	7月30日	安全・安心	高橋 和雄	(工学部)																																																																											
第15回	8月 2日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)																																																																											

キーワード	<p>海洋と文化:海洋環境、人間と海とのかかわり 平和:原爆 兵器生産 キリシタン弾圧 長崎:長崎の都市形成史 安全・安心:自然災害、減災社会、公助・自助</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化:印刷物を配布する。 平和: 参考書:『ナガサキから平和学する』 法律文化社 長崎:参考書:岡林隆敏著:上海航路の時代、長崎文献社 安全・安心:参考書:安全安心工学入門</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:毎回レポートの課題を出し、3回のレポートにより評価する。 海洋と文化:毎回のレポート各7点 安全・安心:レポート各7点 平和:毎回のレポート各7点</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 403・中部講堂		
対象学生(クラス等) Ld・Ed	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 萩原篤志/Eメールアドレス:hagiwara@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2830/オフィスアワー: 林秀千人/Eメールアドレス:hidechto@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2516/オフィスアワー:月曜日 16:00~18:00 片岡千賀之/Eメールアドレス:kataoka@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2802 /オフィスアワー:月午後 井田洋子/Eメールアドレス:smile@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6401 /オフィスアワー: Eメールで連絡を受けた後、日時を決定する。				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
長 崎：1. 魚食文化と長崎：港町、倉場富三郎、グラバー図譜 2. 海洋国日本と港町長崎：国際協力、海洋環境問題、観光 3. 水産国日本と長崎：とる漁業、つくる漁業、買う漁業				
安全・安心：安全について、概要を講義する。自ら積極的に安全を行い、安心できる生活を過ごすために、日頃から何をどのようにすべきか考え、地域や個人での備え、助け合いの大切さを学ぶ。				
海洋と文化:第1回：長崎における資本制漁業の発展と魚市場の近代化 第2回:戦後の長崎の漁業と魚市場 第3回:東シナ海・黄海における日本、中国、韓国の漁業関係				
平和： 平和とは、少なくとも戦争がない状態をさす(消極的平和)という認識を出発点として、これまでの人類の平和構築に向けての歩みを歴史的に検証する。具体的には、戦争違法化の歴史と理論(第1回)、平和に対する国際社会および日本のこれまでの姿勢や取り組み方、さらには、将来に向けて、われわれ一人ひとりに突きつけられている課題(第2回および第3回)について論じる。				
第1回	4月12日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第2回	4月19日	長 崎	萩原 篤志	(水産学部)
第3回	4月26日	長 崎	萩原 篤志	(水産学部)
第4回	5月10日	長 崎	萩原 篤志	(水産学部)
第5回	5月17日	安全・安心	林 秀千人	(工学部)
第6回	5月24日	安全・安心	林 秀千人	(工学部)
第7回	6月 7日	安全・安心	林 秀千人	(工学部)
第8回	6月14日	海洋と文化	片岡 千賀之	(水産学部)
第9回	6月21日	海洋と文化	片岡 千賀之	(水産学部)
第10回	6月28日	海洋と文化	片岡 千賀之	(水産学部)
第11回	7月 5日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)
第12回	7月12日	平 和	井田 洋子	(経済学部)
第13回	7月26日	平 和	井田 洋子	(経済学部)
第14回	7月30日	平 和	井田 洋子	(経済学部)
第15回	8月 2日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	長崎：西洋医学、長崎原爆、ヒバクシャ 安全・安心：安全・安心 海洋と文化：グラバー図譜、海洋環境、水産県長崎 平和：個人、国家、武力による介入、人権
教科書・教材・参考書	長崎：資料を配布する。 安全・安心：教科書は使用しない。資料を配付する。 海洋と文化：毎回、資料を配付する。 平和：特に指定しない。毎回、レジユメを配布する。
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎：レポート 安全・安心：レポート 平和：レポート 海洋と文化：レポート
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 429・中部講堂		
対象学生(クラス等) Le・F27	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 井田洋子/Eメールアドレス:smile@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6401 /オフィスアワー: Eメールで連絡を受けた後、日時を決定する。 萩原篤志/Eメールアドレス:hagiwara@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2830/オフィスアワー: 林秀千人/Eメールアドレス:hidechto@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2516/オフィスアワー:月曜日 16:00~18:00 片岡千賀之/Eメールアドレス:kataoka@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2802 /オフィスアワー:月午後				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 平和: 平和とは少なくとも戦争がない状態をさす(消極的平和)という認識を出発点として、これまでの人類の平和構築に向けての歩みを歴史的に検証する。具体的には、戦争違法化の歴史と理論(第1回)、平和に対する国際社会および日本のこれまでの姿勢や取り組み方、さらには、将来に向けて、われわれ一人ひとりに突きつけられている課題(第2回および第3回)について論じる。 長崎: 1. 魚食文化と長崎:港町、倉場富三郎、グラバー図譜 2. 海洋国日本と港町長崎:国際協力、海洋環境問題、観光 3. 水産国日本と長崎:とる漁業、つくる漁業、買う漁業 安全・安心:安全について、概要を講義する。自ら積極的に安全を行い、安心できる生活を過ごすために、日頃か何をどのようにすべきか考え、地域や個人での備え、助け合いの大切さを学ぶ。 海洋と文化:第1回:長崎における資本制漁業の発展と魚市場の近代化 第2回:戦後の長崎の漁業と魚市場 第3回:東シナ海・黄海における日本、中国、韓国の漁業関係 第1回 4月12日 特別講演Ⅰ 片峰 茂 (学 長) 第2回 4月19日 平 和 井田 洋子 (経済学部) 第3回 4月26日 平 和 井田 洋子 (経済学部) 第4回 5月10日 平 和 井田 洋子 (経済学部) 第5回 5月17日 長 崎 萩原 篤志 (水産学部) 第6回 5月24日 長 崎 萩原 篤志 (水産学部) 第7回 6月 7日 長 崎 萩原 篤志 (水産学部) 第8回 6月14日 安全・安心 林 秀千人 (工学部) 第9回 6月21日 安全・安心 林 秀千人 (工学部) 第10回 6月28日 安全・安心 林 秀千人 (工学部) 第11回 7月 5日 特別講演Ⅱ 後藤 恵之輔 (名誉教授) 第12回 7月12日 海洋と文化 片岡 千賀之 (水産学部) 第13回 7月26日 海洋と文化 片岡 千賀之 (水産学部) 第14回 7月30日 海洋と文化 片岡 千賀之 (水産学部) 第15回 8月 2日 特別講演Ⅲ 橋本 健夫 (教学担当理事)				

キーワード	平和：個人、国家、武力による介入、人権 長崎： グラバー函譜、海洋環境、水産県長崎 安全・安心：安全・安心 海洋と文化：漁業の歴史、海洋秩序
教科書・教材・参考書	平和：特に指定しない。毎回、レジユメを配布する。 長崎： 資料を配布する。 安全・安心：教科書は使用しない。資料を配布する。 海洋と文化：毎回、資料を配付する。
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎：レポート 安全・安心：レポート 平和：レポート 海洋と文化：レポート
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 月曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義/(Colloquium)			
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 430・中部講堂		
対象学生(クラス等) Lf・F28	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 片岡千賀之/Eメールアドレス:kataoka@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2802 /オフィスアワー:月午後 井田洋子/Eメールアドレス:smile@nagasaki-u.ac.jp /研究室:経済学部/TEL:820-6401 /オフィスアワー:Eメールで連絡を受けた後、日時を決定する。 萩原篤志/Eメールアドレス:hagiwara@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2830/オフィスアワー: 林秀千人/Eメールアドレス:hidecho@nagasaki-u.ac.jp /研究室:工学部/TEL:819-2516/オフィスアワー:月曜日 16:00~18:00				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 海洋と文化:第1回:長崎における資本制漁業の発展と魚市場の近代化 第2回:戦後の長崎の漁業と魚市場 第3回:東シナ海・黄海における日本、中国、韓国の漁業関係 平和: 平和とは少なくとも戦争がない状態をさす(消極的平和)という認識を出発点として、これまでの人類の平和構築に向けての歩みを歴史的に検証する。具体的には、戦争違法化の歴史と理論(第1回)、平和に対する国際社会および日本のこれまでの姿勢や取り組み方、さらには、将来に向けて、われわれ一人ひとりに突きつけられている課題(第2回および第3回)について論じる。 長崎: 1. 魚食文化と長崎:港町、倉場富三郎、グラバー図譜 2. 海洋国日本と港町長崎:国際協力、海洋環境問題、観光 3. 水産国日本と長崎:とる漁業、つくる漁業、買う漁業 安全・安心:安全について、概要を講義する。自ら積極的に安全を行い、安心できる生活を過ごすために、日頃何をどのようにすべきか考え、地域や個人での備え、助け合いの大切さを学ぶ。 第1回 4月12日 特別講演Ⅰ 片峰 茂 (学長) 第2回 4月19日 海洋と文化 片岡 千賀之 (水産学部) 第3回 4月26日 海洋と文化 片岡 千賀之 (水産学部) 第4回 5月10日 海洋と文化 片岡 千賀之 (水産学部) 第5回 5月17日 平和 井田 洋子 (経済学部) 第6回 5月24日 平和 井田 洋子 (経済学部) 第7回 6月 7日 平和 井田 洋子 (経済学部) 第8回 6月14日 長崎 萩原 篤志 (水産学部) 第9回 6月21日 長崎 萩原 篤志 (水産学部) 第10回 6月28日 長崎 萩原 篤志 (水産学部) 第11回 7月 5日 特別講演Ⅱ 後藤 恵之輔 (名誉教授) 第12回 7月12日 安全・安心 林 秀千人 (工学部) 第13回 7月26日 安全・安心 林 秀千人 (工学部) 第14回 7月30日 安全・安心 林 秀千人 (工学部) 第15回 8月 2日 特別講演Ⅲ 橋本 健夫 (教学担当理事)				

キーワード	<p>海洋と文化：漁業の歴史、海洋秩序 平和：個人、国家、武力による介入、人権 長崎：グラバー図譜。海洋環境、水産県長崎 安全・安心：安全・安心</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化：毎回、資料を配付する。 平和：特に指定しない。毎回、レジュメを配布する。 長崎：資料を配布する。 安全・安心：教科書は使用しない。資料を配布する。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎：レポート 安全・安心：レポート 平和：レポート 海洋と文化：レポート</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010 学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 102・中部講堂	
対象学生(クラス等) Ee・T22A	科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 田中 隆/Eメールアドレス:t-tanaka@nagasaki-u.ac.jp/研究室:薬学部/TEL:819-2433 /オフィスアワー:12:00~18:00 馬越孝道/Eメールアドレス:umakoshi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2766/オフィスアワー:16:00~17:30 天野雅男/Eメールアドレス:m-amano@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2811 /オフィスアワー:16:00~17:00 岡市協生/Eメールアドレス:okaichi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:849-7102 /オフィスアワー:16:00~17:30			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。</p> <p>授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。</p> <p>授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>長崎: 第1回 長崎発のくすりの歴史:シーボルトをはじめとするオランダ商館医らが長崎出島で使った薬を紹介し、彼らが日本の薬の発展にどのように貢献したかを解説する。</p> <p>第2回 無人島での化学生態学:長崎県平戸諸島にある野崎島では人口減少に伴いシカが増加した。多くの植物が食べつくされる中で、植物たちの生き残りをかけた戦いについて紹介する。</p> <p>第3回 地域産業活性化を目指して:産学官共同研究により長崎県特産物を素材とする新しい製品の開発が展開されている。機能性発酵茶開発を例にして長崎独自のものづくりについて紹介する。</p> <p>安全・安心:長崎に発生した豪雨、地震、台風、火山噴火等による自然災害の概要、教訓、復興対策から、日頃からの地域や個人での災害に対する備え、助け合いの大切さを学びます。</p> <p>第1回 安全安心の総論・長崎における自然災害史</p> <p>第2回 雲仙火山災害の教訓・長崎の地震</p> <p>第3回 自助、共助、公助</p> <p>海洋と文化:(1)長崎の鯨文化と西海の捕鯨:長崎は古くから鯨との関わりが深い街である。鯨文化とその背景となった西海の捕鯨の歴史について学ぶ。</p> <p>(2)日本の捕鯨:日本の捕鯨、イルカ漁業の現状と問題点について学び、その将来を考える</p> <p>(3)鯨類の文化:動物にも文化を持つものがあるということが理解されてきた。鯨類は高い知能を持ち、文化的な行動の例が多く報告されている。文化の進化と海洋環境との関わりについて学ぶ。</p> <p>平和:原爆被爆地にある長崎大学の学生が、平和を考える一環として原爆を取り上げる。</p> <p>(1)原爆と放射線、(2)原爆の影響、(3)原子力発電と核拡散、について講義する。</p> <p>原爆と放射線に関する知識を持ってもらうとともに、原子力発電にも関心を持ってもらいたい。</p>			
第1回	4月14日	長崎	田中 隆 (薬学部)
第2回	4月21日	長崎	田中 隆 (薬学部)
第3回	4月28日	長崎	田中 隆 (薬学部)
第4回	5月12日	特別講演 I	片峰 茂 (学 長)
第5回	5月19日	安全・安心	馬越 孝道 (環境科学部)
第6回	5月26日	安全・安心	馬越 孝道 (環境科学部)
第7回	6月 2日	安全・安心	坂本麻衣子 (工学部)
第8回	6月 9日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第9回	6月16日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第10回	6月23日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第11回	6月30日	特別講演 II	後藤 恵之輔 (名誉教授)
第12回	7月 7日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第13回	7月14日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第14回	7月21日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第15回	7月28日	特別講演 III	橋本 健夫 (教学担当理事)

キーワード	長崎:くすり、生態学、ものづくり 安全・安心:自然災害、減災社会、公助・自助 海洋と文化:鯨類、捕鯨、海洋環境 平和:原爆、放射線、原子力発電
教科書・教材・参考書	長崎:講義の概要を印刷物として配布(参考書:出島のくすり、長崎大学薬学部編) 安全・安心:印刷物を配布する。 海洋と文化:教科書は使用しない。講義はスライド資料を用いて行う。 平和:参考書:「原爆災害 ヒロシマ・ナガサキ」 岩波現代文庫
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:毎回小レポート(各7点) 安全・安心:レポート(毎回、各7点) 平和:毎回の小レポート、各7点 海洋と文化: レポート(毎回、3回7点)
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010 学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 205・中部講堂	
対象学生(クラス等) Ef・T22B	科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 岡市協生/Eメールアドレス: okaichi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:849-7102 /オフィスアワー:16:00~17:30 田中 隆/Eメールアドレス:t-tanaka@nagasaki-u.ac.jp/研究室:薬学部/TEL:819-2433/オフィスアワー:12:00~18:00 馬越孝道/Eメールアドレス:umakoshi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2766 /オフィスアワー:16:00~17:30 天野雅男/Eメールアドレス:m-amano@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2811 /オフィスアワー:16:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」2回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 平和: 原爆被爆地にある長崎大学の学生が、平和を考える一環として原爆を取り上げる。 (1)原爆と放射線、(2)原爆の影響、(3)原子力発電と核拡散、について講義する。 原爆と放射線に関する知識を持ってもらうとともに、原子力発電にも関心を持ってもらいたい。 長崎: 第1回 長崎発のくすりの歴史:シーボルトをはじめとするオランダ商館医らが長崎出島で使った薬を紹介し、彼らが日本の薬の発展にどのように貢献したかを解説する。 第2回 無人島での化学生態学:長崎県平戸諸島にある野崎島では人口減少に伴いシカが増加した。多くの植物が食べつくされる中で、植物たちの生き残りをかけた戦いについて紹介する。 第3回 地域産業活性化を目指して:産学官共同研究により長崎県特産物を素材とする新しい製品の開発が展開されている。機能性発酵茶開発を例にして長崎独自のものづくりについて紹介する。 安全・安心:長崎に発生した豪雨、地震、台風、火山噴火等による自然災害の概要、教訓、復興対策から、日頃からの地域や個人での災害に対する備え、助け合いの大切さを学びます。 第1回 安全安心の総論・長崎における自然災害史 第2回 雲仙火山災害の教訓・長崎の地震 第3回 自助、共助、公助 海洋と文化:(1)長崎の鯨文化と西海の捕鯨:長崎は古くから鯨との関わりが深い街である。鯨文化とその背景となった西海の捕鯨の歴史について学ぶ。 (2)日本の捕鯨:日本の捕鯨、イルカ漁業の現状と問題点について学び、その将来を考える (3)鯨類の文化:動物にも文化を持つものがあるということが理解されてきた。鯨類は高い知能を持ち、文化的な行動の例が多く報告されている。文化の進化と海洋環境との関わりについて学ぶ。			
第1回	4月14日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第2回	4月21日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第3回	4月28日	平 和	岡市 協生 (医学部)
第4回	5月12日	特別講演Ⅰ	片峰 茂 (学 長)
第5回	5月19日	長 崎	田中 隆 (薬学部)
第6回	5月26日	長 崎	田中 隆 (薬学部)
第7回	6月 2日	長 崎	田中 隆 (薬学部)
第8回	6月 9日	安全・安心	馬越 孝道 (環境科学部)
第9回	6月16日	安全・安心	馬越 孝道 (環境科学部)
第10回	6月23日	安全・安心	坂本麻衣子 (工学部)
第11回	6月30日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔 (名誉教授)
第12回	7月 7日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第13回	7月14日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第14回	7月21日	海洋と文化	天野 雅男 (水産学部)
第15回	7月28日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫 (教学担当理事)

キーワード	平和:原爆、放射線、原子力発電 長崎:くすり、生態学、ものづくり 安全・安心:自然災害、減災社会、公助・自助 海洋と文化:鯨類、捕鯨、海洋環境
教科書・教材・参考書	平和:参考書:「原爆災害 ヒロシマ・ナガサキ」岩波現代文庫 長崎:講義の概要を印刷物として配布(参考書:出島のくすり、長崎大学薬学部編) 安全・安心:印刷物を配布する。 海洋と文化:教科書は使用しない。講義はスライド資料を用いて行う。
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:毎回小レポート(各7点) 安全・安心:レポート(毎回、各7点) 平和:毎回の小レポート、各7点 海洋と文化:レポート(毎回、3回7点)
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義/(Colloquium)			
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 201・中部講堂		
対象学生(クラス等) Eg・T23A	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 天野雅男/Eメールアドレス:m-amano@nagasaki-u.ac.jp/研究室:水産学部/TEL:819-2811/オフィスアワー:16:00~17:00 岡市協生/Eメールアドレス:okaichi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:849-7102/オフィスアワー:16:00~17:30 田中 隆/Eメールアドレス:t-tanaka@nagasaki-u.ac.jp/研究室:薬学部/TEL:819-2433/オフィスアワー:12:00~18:00 馬越孝道/Eメールアドレス:umakoshi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2766/オフィスアワー:16:00~17:30				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 海洋と文化:(1)長崎の鯨文化と西海の捕鯨:長崎は古くから鯨との関わりが深い街である。鯨文化とその背景となった西海の捕鯨の歴史について学ぶ。 (2)日本の捕鯨:日本の捕鯨、イルカ漁業の現状と問題点について学び、その将来を考える (3)鯨類の文化:動物にも文化を持つものがあるということが理解されてきた。鯨類は高い知能を持ち、文化的な行動の例が多く報告されている。文化の進化と海洋環境との関わりについて学ぶ。 平和:原爆被爆地にある長崎大学の学生が、平和を考える一環として原爆を取り上げる。 (1)原爆と放射線、(2)原爆の影響、(3)原子力発電と核拡散、について講義する。 原爆と放射線に関する知識を持ってもらうとともに、原子力発電にも関心を持ってもらいたい。 長崎: 第1回 長崎発のくすりの歴史:シーボルトをはじめとするオランダ商館医らが長崎出島で使った薬を紹介し、彼らが日本の薬の発展にどのように貢献したかを解説する。 第2回 無人島での化学生態学:長崎県平戸諸島にある野崎島では人口減少に伴いシカが増加した。多くの植物が食べつくされる中で、植物たちの生き残りをかけた戦いについて紹介する。 第3回 地域産業活性化を目指して:産学官共同研究により長崎県特産物を素材とする新しい製品の開発が展開されている。機能性発酵茶開発を例にして長崎独自のものづくりについて紹介する。 安全・安心:長崎に発生した豪雨、地震、台風、火山噴火等による自然災害の概要、教訓、復興対策から、日頃からの地域や個人での災害に対する備え、助け合いの大切さを学びます。 第1回 安全安心の総論・長崎における自然災害史 第2回 雲仙火山災害の教訓・長崎の地震 第3回 自助、共助、公助				
第1回	4月14日	海洋と文化	天野 雅男	(水産学部)
第2回	4月21日	海洋と文化	天野 雅男	(水産学部)
第3回	4月28日	海洋と文化	天野 雅男	(水産学部)
第4回	5月12日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第5回	5月19日	平 和	岡市 協生	(医学部)
第6回	5月26日	平 和	岡市 協生	(医学部)
第7回	6月 2日	平 和	岡市 協生	(医学部)
第8回	6月 9日	長 崎	田中 隆	(薬学部)
第9回	6月16日	長 崎	田中 隆	(薬学部)
第10回	6月23日	長 崎	田中 隆	(薬学部)
第11回	6月30日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)
第12回	7月 7日	安全・安心	馬越 孝道	(環境科学部)
第13回	7月14日	安全・安心	馬越 孝道	(環境科学部)
第14回	7月21日	安全・安心	坂本麻衣子	(工学部)
第15回	7月28日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>海洋と文化:鯨類、捕鯨、海洋環境 平和:原爆、放射線、原子力発電 長崎:くすり、生態学、ものづくり 安全・安心:自然災害、減災社会、公助・自助</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化:教科書は使用しない、講義はスライド資料を用いて行う。 平和:参考書:「原爆災害 ヒロシマ・ナガサキ」 岩波現代文庫 長崎:講義の概要を印刷物として配布(参考書:出島のくすり、長崎大学薬学部編) 安全・安心:印刷物を配布する。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:毎回小レポート(各7点) 安全・安心:レポート(毎回、各7点) 平和:毎回の小レポート、各7点 海洋と文化:レポート(毎回、3回7点)</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 403・中部講堂		
対象学生(クラス等) Eh・T23B	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山口純哉/Eメールアドレス:junya@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6326 /オフィスアワー:水曜 17:00-18:00 久保 隆/Eメールアドレス:kubo-t@nagasaki-u.ac.jp/研究室:共同研究交流センター/TEL:819-2246 /オフィスアワー:水5限 亀田和彦/Eメールアドレス:kameyan@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819- /オフィスアワー:金5校時 富塚 明/研究室:環境科学部/TEL:819-2767 /オフィスアワー:木曜 12:00-13:00				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
長崎: 長崎の地域経済・社会の特徴を統計資料等により概観したうえで、観光、まちづくりや文化といった視点から長崎の今を受講生とともに検討する。				
安全・安心:安全・安心な生活がいかんして成り立っているかを身近な例を挙げて考える。その上で、リスクの概念を基に、人や生態系の安全性を評価するための基本的な考え方を学ぶ。				
海洋と文化:長崎に住む私たちが長崎の海の恵みと、どう関わってきたのかに注目します。海に囲まれた長崎は、昔から、「海の幸」とともに暮らしてきました。海の恵みとの共生を、水産業に注目しながら振り返り、展望を考えます。				
平和: イラク戦争、防衛庁の「省」への移行、憲法九条を変えようとする動き、北朝鮮の核実験、オバマ米大統領の「核兵器のない世界」演説など 21 世紀にはいって平和の問題がこれまで以上に問われるようになっていく。長崎県は原爆被爆県であると同時に全国有数の米軍・自衛隊基地を抱えている県でもある。核兵器と基地問題に焦点を当てて、長崎県のおかれている現状を考える。 第1回 長崎原爆被害の実相 第2回 核兵器をめぐる諸問題 第3回 米戦略と長崎県の軍事基地				
第1回	4月14日	長崎	山口 純哉	(経済学部)
第2回	4月21日	長崎	山口 純哉	(経済学部)
第3回	4月28日	長崎	山口 純哉	(経済学部)
第4回	5月12日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第5回	5月19日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第6回	5月26日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第7回	6月 2日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第8回	6月 9日	海洋と文化	亀田 和彦	(水産学部)
第9回	6月16日	海洋と文化	亀田 和彦	(水産学部)
第10回	6月23日	海洋と文化	亀田 和彦	(水産学部)
第11回	6月30日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)
第12回	7月 7日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第13回	7月14日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第14回	7月21日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第15回	7月28日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	長崎:長崎、文化、観光、まちづくり 安全・安心:リスク評価、環境安全、労働安全 海洋と文化:海、水産業、私たちの暮らし 平和:原爆被害、核兵器、基地、安保条約
教科書・教材・参考書	長崎:教員の作成した資料を用いるため、特に指定しない。 安全・安心:参考書:「安全安心工学入門」古今書院 海洋と文化:プリント等を適宜配付する。 平和:テキストは使用しない。プリントを適宜配付する。
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:レポート(100%、7点×3回) 安全・安心:毎回のレポート 平和:毎回の講義のまとめ(100%) 海洋と文化:毎回の講義のまとめ(レポートとして提出:70%)と授業への積極的な参加の状況(30%)
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次		講義形態 講義・講演	教室 429・中部講堂	
対象学生(クラス等) M11 P18		科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 富塚 明/研究室:環境科学部/TEL:819-2767 /オフィスアワー:木曜 12:00-13:00 山口純哉/Eメールアドレス:junya@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6326 /オフィスアワー:水曜 17:00-18:00 久保 隆/Eメールアドレス:kubo-t@nagasaki-u.ac.jp/研究室:共同研究交流センター/TEL:819-2246 /オフィスアワー:水5限 亀田和彦/Eメールアドレス:kameyan@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819- /オフィスアワー:金5校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
<p>平和: イラク戦争、防衛庁の「省」への移行、憲法九条を変えようとする動き、北朝鮮の核実験、オバマ米大統領の「核兵器のない世界」演説など 21 世紀にはいつて平和の問題がこれまで以上に問われるようになっていく。長崎県は原爆被爆県であると同時に全国有数の米軍・自衛隊基地を抱えている県でもある。核兵器と基地問題に焦点を当て、長崎県のおかれている現状を考える。</p> <p>第1回 長崎原爆被害の実相 第2回 核兵器をめぐる諸問題 第3回 米戦略と長崎県の軍事基地</p> <p>長崎: 長崎の地域経済・社会の特徴を統計資料等により概観したうえで、観光、まちづくりや文化といった視点から長崎の今を受講生とともに検討する。</p> <p>安全・安心: 安全・安心な生活がいかにして成り立っているかを身近な例を挙げて考える。その上で、リスクの概念を基に、人や生態系の安全性を評価するための基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>海洋と文化: 長崎に住む私たちが長崎の海の恵みと、どう関わってきたのかに注目します。海に囲まれた長崎は、昔から、「海の幸」とともに暮らしてきました。海の恵みとの共生を、水産業に注目しながら振り返り、展望を考えます。</p>				
第1回	4月14日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第2回	4月21日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第3回	4月28日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第4回	5月12日	特別講演 I	片峰 茂	(学 長)
第5回	5月19日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第6回	5月26日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第7回	6月 2日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第8回	6月 9日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第9回	6月16日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第10回	6月23日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第11回	6月30日	特別講演 II	後藤 恵之輔	(名誉教授)
第12回	7月 7日	海洋と文化	亀田 和彦	(水産学部)
第13回	7月14日	海洋と文化	亀田 和彦	(水産学部)
第14回	7月21日	海洋と文化	亀田 和彦	(水産学部)
第15回	7月28日	特別講演 III	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>平和:原爆被害、核兵器、基地、安保条約 長崎:長崎、文化、観光、まちづくり 安全・安心:リスク評価、環境安全、労働安全 海洋と文化:船、水産業、海洋環境</p>
教科書・教材・参考書	<p>平和:テキストは使用しない。プリントを適宜配付する。 安全・安心:参考書:「安全安心工学入門」古今書院 長崎:教員の作成した資料を用いるため、特に指定しない。 海洋と文化:プリント等を適宜配付する。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:レポート(100%、7点×3回) 安全・安心:毎回のレポート 平和:毎回の講義のまとめ(100%) 海洋と文化:毎回の講義のまとめ(レポートとして提出:70%)と授業への積極的な参加の状況(30%)</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 水曜日・3校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 430・中部講堂		
対象学生(クラス等) M12・P19	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 亀田和彦/Eメールアドレス:kameyan@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819- /オフィスアワー:金5校時 富塚 明/研究室:環境科学部/TEL:819-2767 /オフィスアワー:木曜 12:00-13:00 山口純哉/Eメールアドレス:junya@nagasaki-u.ac.jp/研究室:経済学部/TEL:820-6326 /オフィスアワー:水曜 17:00-18:00 久保 隆/Eメールアドレス:kubo-t@nagasaki-u.ac.jp/研究室:共同研究交流センター/TEL:819-2246 /オフィスアワー:水5限				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
海洋と文化:長崎に住む私たちが長崎の海の恵みと、どう関わってきたのかに注目します。海に囲まれた長崎は、昔から、「海の幸」とともに暮らしてきました。海の恵みとの共生を、水産業に注目しながら振り返り、展望を考えます。				
平和: イラク戦争、防衛庁の「省」への移行、憲法九条を変えようとする動き、北朝鮮の核実験、オバマ米大統領の「核兵器のない世界」演説など 21 世紀にはいつて平和の問題がこれまで以上に問われるようになっていく。長崎県は原爆被爆県であると同時に全国有数の米軍・自衛隊基地を抱えている県でもある。核兵器と基地問題に焦点を当てて、長崎県のおかれている現状を考える。 第1回 長崎原爆被害の実相 第2回 核兵器をめぐる諸問題 第3回 米戦略と長崎県の軍事基地				
長崎: 長崎の地域経済・社会の特徴を統計資料等により概観したうえで、観光、まちづくりや文化といった視点から長崎の今を受講生とともに検討する。				
安全・安心:安全・安心な生活がいかにして成り立っているかを身近な例を挙げて考える。その上で、リスクの概念を基に、人や生態系の安全性を評価するための基本的な考え方を学ぶ。				
第1回	4月14日	海洋と文化	亀田 和彦	(水産学部)
第2回	4月21日	海洋と文化	亀田 和彦	(水産学部)
第3回	4月28日	海洋と文化	亀田 和彦	(水産学部)
第4回	5月12日	特別講演 I	片峰 茂	(学 長)
第5回	5月19日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第6回	5月26日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第7回	6月 2日	平 和	富塚 明	(環境科学部)
第8回	6月 9日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第9回	6月16日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第10回	6月23日	長 崎	山口 純哉	(経済学部)
第11回	6月30日	特別講演 II	後藤 恵之輔	(名誉教授)
第12回	7月 7日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第13回	7月14日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第14回	7月21日	安全・安心	久保 隆	(共同研究交流センター)
第15回	7月28日	特別講演 III	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>海洋と文化:船、水産業、海洋環境 平和:原爆被害、核兵器、基地、安保条約 長崎:長崎、文化、観光、まちづくり 安全・安心:リスク評価、環境安全、労働安全</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化:プリント等を適宜配付する。 平和:テキストは使用しない。プリントを適宜配付する。 長崎:教員の作成した資料を用いるため、特に指定しない。 安全・安心:参考書:「安全安心工学入門」古今書院</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:レポート(100%、7点×3回) 安全・安心:毎回のレポート 平和:毎回の講義のまとめ(100%) 海洋と文化:毎回の講義のまとめ(レポートとして提出:70%)と授業への積極的な参加の状況(30%)</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義 / (Colloquium)			
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 102・中部講堂		
対象学生(クラス等) M13・T20A	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 三根真理子/Eメールアドレス:mmine@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:819-7127/オフィスアワー:火曜日午後 石松隆和/Eメールアドレス:ishi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2508 /オフィスアワー:月3校時 山口恭弘/Eメールアドレス:ayutrap@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2808 /オフィスアワー:12:00-13:00、 V時間目 戸田 清/Eメールアドレス:toda@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2726 /オフィスアワー:月曜5校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 長 崎: 第1回:長崎と医学 西洋医学発祥の地である長崎の歴史を学ぶ。 第2回:長崎原爆と医科大学 長崎に原爆が投下され、医科大学壊滅から復興の経緯、被災者の救護活動の概要を知る。 第3回:世界のヒバクシャ 原爆以外に核実験や原発事故によるヒバクシャの現状を学ぶ。 安全・安心:長崎に暮らす高齢者や障害者の生活の現状を眺め、安全安心のためになにが必要かについて述べる。 海洋と文化:第1回 進化の過程からみた海洋とヒトの誕生と文化の黎明。 第2回 ヒトの特徴から漁業技術への発展段階。 第3回 長崎の海洋ならびに漁業の特徴。 毎回の講義で「受講シート:講義のまとめ、質問・要望、感想の記載」を配付し双方向的講義を行う。また受講シートの記載内容は各出席回ごとの受講態度として点数化して評価の一部(配点:受講シート 30%、レポート 70%)とする。 平和: 第1回:核時代を考える 第2回:戦争と資源・環境問題 第3回:直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力				
第1回	4月16日	長 崎	三根 真理子	(医学部)
第2回	4月23日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第3回	4月30日	長 崎	三根 真理子	(医学部)
第4回	5月 7日	長 崎	三根 真理子	(医学部)
第5回	5月14日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第6回	5月21日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第7回	5月28日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第8回	6月 4日	海洋と文化	山口 恭弘	(水産学部)
第9回	6月11日	海洋と文化	山口 恭弘	(水産学部)
第10回	6月18日	海洋と文化	山口 恭弘	(水産学部)
第11回	6月25日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)
第12回	7月 2日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第13回	7月 9日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第14回	7月16日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第15回	7月23日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	長崎：西洋医学、長崎原爆、ヒバクシャ 安全・安心：高齢者、地域、福祉、共生 海洋と文化： 平和：戦争、暴力、平和、核
教科書・教材・参考書	長崎：講義には適時資料を配布。(参考書:長崎医科大学原爆記録集) 安全・安心:なし 海洋と文化： 魚食文化:肉食文化と魚食文化(長崎福三、人間選書 183、農文協) 現代魚食考(成瀬宇平、丸善ライブラリー109) 漁具漁法:日本の漁業と漁法(金田禎之、成山堂) 平和：教科書は指定しない。映像を用い、プリントを配布する。参考書は適宜紹介する。
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:レポート 安全・安心:レポート 海洋と文化:レポート 平和:出席状況とレポートによる総合評価。
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ/学習・教育目標	海洋と文化:漁業という海洋から生まれた文化についてヒトと道具との関わりの原点を学び体系的に説明できるようになる。
備考(準備学習等)	海洋と文化:どのような形でもよいので「海」、「海岸」、「釣」、「漁業」などに触れておくことが望ましい。

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義/(Colloquium)			
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 205・中部講堂		
対象学生(クラス等) M14・T20B	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 戸田 清/Eメールアドレス:toda@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2726 /オフィスアワー:月曜5校時 三根真理子/Eメールアドレス:mmine@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:819-7127/オフィスアワー:火曜日午後 石松隆和/Eメールアドレス:ishi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2508 /オフィスアワー:月3校時 山口恭弘/Eメールアドレス:ayutrap@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2808 /オフィスアワー:12:00-13:00、 V時間目				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 平和: 第1回:核時代を考える 第2回:戦争と資源・環境問題 第3回:直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力 長 崎: 第1回:長崎と医学 西洋医学発祥の地である長崎の歴史を学ぶ。 第2回:長崎原爆と医科大学 長崎に原爆が投下され、医科大学壊滅から復興の経緯、被災者の救護活動の概要を知る。 第3回:世界のヒバクシャ 原爆以外に核実験や原発事故によるヒバクシャの現状を学ぶ。 安全・安心: 長崎に暮らす高齢者や障害者の生活の現状を眺め、安全安心のためになにが必要かについて述べる。 海洋と文化:第1回 進化の過程からみた海洋とヒトの誕生と文化の黎明。 第2回 ヒトの特徴から漁業技術への発展段階。 第3回 長崎の海洋ならびに漁業の特徴。 毎回の講義で「受講シート:講義のまとめ、質問・要望、感想の記載」を配付し双方向的講義を行う。また受講シートの記載内容は各出席回ごとの受講態度として点数化して評価の一部(配点:受講シート 30%、レポート 70%)とする。				
第1回	4月16日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第2回	4月23日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第3回	4月30日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第4回	5月 7日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第5回	5月14日	長 崎	三根 真理子	(医学部)
第6回	5月21日	長 崎	三根 真理子	(医学部)
第7回	5月28日	長 崎	三根 真理子	(医学部)
第8回	6月 4日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第9回	6月11日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第10回	6月18日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第11回	6月25日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)
第12回	7月 2日	海洋と文化	山口 恭弘	(水産学部)
第13回	7月 9日	海洋と文化	山口 恭弘	(水産学部)
第14回	7月16日	海洋と文化	山口 恭弘	(水産学部)
第15回	7月23日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>平和：戦争、暴力、平和、核 長崎：西洋医学、長崎原爆、ヒバクシャ 安全・安心：高齢者、地域、福祉、共生 海洋と文化：</p>
教科書・教材・参考書	<p>平和：教科書は指定しない。映像を用い、プリントを配布する。参考書は適宜紹介する。 長崎：講義には適時資料を配布。(参考書:長崎医科大学原爆記録集) 安全・安心:なし 海洋と文化： 魚食文化:肉食文化と魚食文化(長崎福三、人間選書 183、農文協) 現代魚食考(成瀬宇平、丸善ライブラリー109) 漁具漁法:日本の漁業と漁法(金田禎之、成山堂)</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎:レポート 安全・安心:レポート 海洋と文化:レポート 平和:出席状況とレポートによる総合評価。</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ/学習・教育目標	<p>海洋と文化:漁業という海洋から生まれた文化についてヒトと道具との関わりの原点を学び体系的に説明できるようになる。</p>
備考(準備学習等)	<p>海洋と文化:どのような形でもよいので「海」、「海岸」、「釣」、「漁業」などに触れておくことが望ましい。</p>

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 201・中部講堂		
対象学生(クラス等) M15・T21A	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山口恭弘/Eメールアドレス: ayutrap@nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部/TEL:819-2808 /オフィスアワー:12:00-13:00、 V時間目 戸田 清/Eメールアドレス:toda@nagasaki-u.ac.jp/研究室:環境科学部/TEL:819-2726 /オフィスアワー:月曜5校時 三根真理子/Eメールアドレス:mmine@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:819-7127/オフィスアワー:火曜日午後 石松隆和/Eメールアドレス:ishi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2508 /オフィスアワー:月3校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
<p>海洋と文化:第1回 進化の過程からみた海洋とヒトの誕生と文化の黎明。 第2回 ヒトの特徴から漁業技術への発展段階。 第3回 長崎の海洋ならびに漁業の特徴。 毎回の講義で「受講シート:講義のまとめ、質問・要望、感想の記載」を配付し双方向的講義を行う。また受講シートの記載内容は各出席回ごとの受講態度として点数化して評価の一部(配点:受講シート 30%、レポート 70%)とする。</p> <p>平和: 第1回:核時代を考える 第2回:戦争と資源・環境問題 第3回:直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力</p> <p>長 崎: 第1回:長崎と医学 西洋医学発祥の地である長崎の歴史を学ぶ。 第2回:長崎原爆と医科大学 長崎に原爆が投下され、医科大学壊滅から復興の経緯、被災者の救護活動の概要を知る。 第3回:世界のヒバクシャ 原爆以外に核実験や原発事故によるヒバクシャの現状を学ぶ。</p> <p>安全・安心:長崎に暮らす高齢者や障害者の生活の現状を眺め、安全安心のためになにが必要かについて述べる。</p>				
第1回	4月16日	海洋と文化	山口 恭弘	(水産学部)
第2回	4月23日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第3回	4月30日	海洋と文化	山口 恭弘	(水産学部)
第4回	5月 7日	海洋と文化	山口 恭弘	(水産学部)
第5回	5月14日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第6回	5月21日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第7回	5月28日	平 和	戸田 清	(環境科学部)
第8回	6月 4日	長 崎	三根 真理子	(医学部)
第9回	6月11日	長 崎	三根 真理子	(医学部)
第10回	6月18日	長 崎	三根 真理子	(医学部)
第11回	6月25日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)
第12回	7月 2日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第13回	7月 9日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第14回	7月16日	安全・安心	石松 隆和	(工学部)
第15回	7月23日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>海洋と文化： 平和：戦争、暴力、平和、核 長崎：西洋医学、長崎原爆、ヒバクシャ 安全・安心：高齢者、地域、福祉、共生</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化： 魚食文化：肉食文化と魚食文化(長崎福三、人間選書 183、農文協) 現代魚食考(成瀬宇平、丸善ライブラリー109) 漁具漁法：日本の漁業と漁法(金田禎之、成山堂)</p> <p>平和：教科書は指定しない。映像を用い、プリントを配布する。参考書は適宜紹介する。 長崎：講義には適時資料を配布。(参考書：長崎医科大学原爆記録集) 安全・安心：なし</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎：レポート 安全・安心：レポート 海洋と文化：レポート 平和：出席状況とレポートによる総合評価。</p>
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ/学習・教育目標	<p>海洋と文化：漁業という海洋から生まれた文化についてヒトと道具との関わりの原点を学び体系的に説明できるようになる。</p>
備考(準備学習等)	<p>海洋と文化：どのような形でもよいので「海」、「海岸」、「釣」、「漁業」などに触れておくことが望ましい。</p>

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位																																																																											
授業科目/(英語名)		教養特別講義/(Colloquium)																																																																													
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 403・中部講堂																																																																													
対象学生(クラス等) D16・K25	科目分類 共通基礎科目																																																																														
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 大津留 晶/Eメールアドレス:ohtsuru@nagasaki-u.ac.jp/研究室:医学部/TEL:819-7594 /オフィスアワー: 田中俊幸/Eメールアドレス:t-toshi@nagasaki-u.ac.jp/研究室:工学部/TEL:819-2563 /オフィスアワー:月曜1校時 中村武弘/Eメールアドレス:tak-nak@nagasaki-u.ac.jp /研究室:環境科学部/TEL:819-2746 /オフィスアワー:水曜1校時 谷川昌幸/Eメールアドレス:tanigawa@nagasaki-u.ac.jp/研究室:教育学部/TEL:819-2308 /オフィスアワー:木曜2校時																																																																															
担当教員(オムニバス科目等)																																																																															
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。																																																																															
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 長崎: 第1回 長崎大学の開学の祖ポンペが日本に残したものは? 第2回 幕末の日本人や外国人が見た長崎、日本とは? 第3回 長崎大学の先輩永井隆博士の思想と生涯 安全・安心: 第1回 安全と安心について 第2回 リスクマネジメントについて 第3回 電磁波がもたらす影響について 海洋と文化: 第1回:海洋の流動について 第2回:海洋の環境汚染について 第3回:海洋のエネルギーについて 平和: グローバル化は国境ばかりか、軍隊と警察、戦争と平和の区別を曖昧にしてしまった。この授業では、この変化を説明した上で、現代における平和実現のためには何が必要かについて考察する。①近代の消極的平和、②グローバル化と積極的平和、③途上国における平和構築。 <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>4月16日</td><td>長崎</td><td>大津留 晶</td><td>(医学部)</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>4月23日</td><td>特別講演Ⅰ</td><td>片峰 茂</td><td>(学長)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>4月30日</td><td>長崎</td><td>大津留 晶</td><td>(医学部)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>5月 7日</td><td>長崎</td><td>大津留 晶</td><td>(医学部)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>5月14日</td><td>安全・安心</td><td>田中 俊幸</td><td>(工学部)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>5月21日</td><td>安全・安心</td><td>田中 俊幸</td><td>(工学部)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>5月28日</td><td>安全・安心</td><td>田中 俊幸</td><td>(工学部)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>6月 4日</td><td>海洋と文化</td><td>中村 武弘</td><td>(環境科学部)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>6月11日</td><td>海洋と文化</td><td>中村 武弘</td><td>(環境科学部)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>6月18日</td><td>海洋と文化</td><td>中村 武弘</td><td>(環境科学部)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>6月25日</td><td>特別講演Ⅱ</td><td>後藤 恵之輔</td><td>(名誉教授)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>7月 2日</td><td>平和</td><td>谷川 昌幸</td><td>(教育学部)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>7月 9日</td><td>平和</td><td>谷川 昌幸</td><td>(教育学部)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>7月16日</td><td>平和</td><td>谷川 昌幸</td><td>(教育学部)</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>7月23日</td><td>特別講演Ⅲ</td><td>橋本 健夫</td><td>(教学担当理事)</td></tr> </table>					第1回	4月16日	長崎	大津留 晶	(医学部)	第2回	4月23日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学長)	第3回	4月30日	長崎	大津留 晶	(医学部)	第4回	5月 7日	長崎	大津留 晶	(医学部)	第5回	5月14日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)	第6回	5月21日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)	第7回	5月28日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)	第8回	6月 4日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)	第9回	6月11日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)	第10回	6月18日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)	第11回	6月25日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)	第12回	7月 2日	平和	谷川 昌幸	(教育学部)	第13回	7月 9日	平和	谷川 昌幸	(教育学部)	第14回	7月16日	平和	谷川 昌幸	(教育学部)	第15回	7月23日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)
第1回	4月16日	長崎	大津留 晶	(医学部)																																																																											
第2回	4月23日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学長)																																																																											
第3回	4月30日	長崎	大津留 晶	(医学部)																																																																											
第4回	5月 7日	長崎	大津留 晶	(医学部)																																																																											
第5回	5月14日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)																																																																											
第6回	5月21日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)																																																																											
第7回	5月28日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)																																																																											
第8回	6月 4日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)																																																																											
第9回	6月11日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)																																																																											
第10回	6月18日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)																																																																											
第11回	6月25日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)																																																																											
第12回	7月 2日	平和	谷川 昌幸	(教育学部)																																																																											
第13回	7月 9日	平和	谷川 昌幸	(教育学部)																																																																											
第14回	7月16日	平和	谷川 昌幸	(教育学部)																																																																											
第15回	7月23日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)																																																																											

キーワード	長崎：歴史・文明・文化・科学・哲学・平和 安全・安心：安全、安心、リスク、リスクマネジメント 海洋と文化：海流、海洋汚染、海洋エネルギー 平和：グローバル化、積極的平和、平和構築
教科書・教材・参考書	長崎：講義の時にプリント配布予定 安全・安心：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。 海洋と文化：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。 平和：(参考書)高橋・舟越編『ナガサキから平和学する』法律文化社、2008 藤原・岡本(編)『グローバル時代の平和学』第1～4巻、法律文化社、2004
成績評価の方法・基準等	長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。 長崎：授業中のレポートの内容で評価。最終レポートを課する場合はその内容も評価に加える 安全・安心：毎回の授業時の小レポートによる評価 平和：3回目授業時に試験実施 海洋と文化：レポートによる評価。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

キーワード	<p>平和：グローバル化、積極的平和、平和構築</p> <p>長崎：歴史・文明・文化・科学・哲学・平和</p> <p>安全・安心：安全、安心、リスク、リスクマネジメント</p> <p>海洋と文化：海流、海洋汚染、海洋エネルギー</p>
教科書・教材・参考書	<p>平和：(参考書)高橋・舟越編『ナガサキから平和学する』法律文化社、2008 藤原・岡本(編)『グローバル時代の平和学』第1～4巻、法律文化社、2004</p> <p>長崎：講義の時にプリント配布予定</p> <p>安全・安心：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。</p> <p>海洋と文化：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。</p> <p>長崎：授業中のレポートの内容で評価。最終レポートを課する場合はその内容も評価に加える</p> <p>安全・安心：毎回の授業時の小レポートによる評価</p> <p>平和：3回目授業時に試験実施</p> <p>海洋と文化：レポートによる評価</p>
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	

年度 2010	学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義 / (Colloquium)			
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 430・中部講堂		
対象学生(クラス等) T21B T21C	科目分類 共通基礎科目			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中村武弘/Eメールアドレス:tak-nak@nagasaki-u.ac.jp /研究室:環境科学部/TEL:819-2746 /オフィスアワー:水曜1校時 谷川昌幸/Eメールアドレス:tanigawa@nagasaki-u.ac.jp /研究室:教育学部/TEL:819-2308 /オフィスアワー:木曜2校時 大津留 晶/Eメールアドレス:ohtsuru@nagasaki-u.ac.jp /研究室:医学部/TEL:819-7594 /オフィスアワー: 田中俊幸/Eメールアドレス:t-toshi@nagasaki-u.ac.jp /研究室:工学部/TEL:819-2563 /オフィスアワー:月曜1校時				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 :特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」3回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標:特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。また、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。さらに、自然のみならず多様な災害から身を守り、安全・安心に生活する方策を習得する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
<p>海洋と文化: 第1回:海洋の流動について 第2回:海洋の環境汚染について 第3回:海洋のエネルギーについて</p> <p>平和: グローバル化は国境ばかりか、軍隊と警察、戦争と平和の区別を曖昧にしてしまった。この授業では、この変化を説明した上で、現代における平和実現のためには何が必要かについて考察する。①近代の消極的平和、②グローバル化と積極的平和、③途上国における平和構築。</p> <p>長崎: 第1回 長崎大学の開学の祖ポンペが日本に残したものとは? 第2回 幕末の日本人や外国人が見た長崎、日本とは? 第3回 長崎大学の先輩永井隆博士の思想と生涯</p> <p>安全・安心: 第1回 安全と安心について 第2回 リスクマネジメントについて 第3回 電磁波がもたらす影響について</p>				
第1回	4月16日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)
第2回	4月23日	特別講演Ⅰ	片峰 茂	(学 長)
第3回	4月30日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)
第4回	5月 7日	海洋と文化	中村 武弘	(環境科学部)
第5回	5月14日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第6回	5月21日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第7回	5月28日	平 和	谷川 昌幸	(教育学部)
第8回	6月 4日	長 崎	大津留 晶	(医学部)
第9回	6月11日	長 崎	大津留 晶	(医学部)
第10回	6月18日	長 崎	大津留 晶	(医学部)
第11回	6月25日	特別講演Ⅱ	後藤 恵之輔	(名誉教授)
第12回	7月 2日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)
第13回	7月 9日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)
第14回	7月16日	安全・安心	田中 俊幸	(工学部)
第15回	7月23日	特別講演Ⅲ	橋本 健夫	(教学担当理事)

キーワード	<p>海洋と文化：海流、海洋汚染、海洋エネルギー</p> <p>平和：グローバル化、積極的平和、平和構築</p> <p>長崎：歴史・文明・文化・科学・哲学・平和</p> <p>安全・安心：安全、安心、リスク、リスクマネジメント</p>
教科書・教材・参考書	<p>海洋と文化：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。</p> <p>平和：(参考書)高橋・舟越編『ナガサキから平和学する』法律文化社、2008 藤原・岡本(編)『グローバル時代の平和学』第1～4巻、法律文化社、2004</p> <p>長崎：講義の時にプリント配布予定</p> <p>安全・安心：教科書は使用しない。当日資料を配布し、プロジェクタで講義を行う。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>長崎21点、安全・安心21点、平和21点、海洋と文化21点、特別講演16点の配点とする。</p> <p>長崎：授業中のレポートの内容で評価。最終レポートを課する場合はその内容も評価に加える</p> <p>安全・安心：毎回の授業時の小レポートによる評価</p> <p>平和：3回目授業時に試験実施</p> <p>海洋と文化：レポートによる評価</p>
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ /学習・教育目標	
備考(準備学習等)	